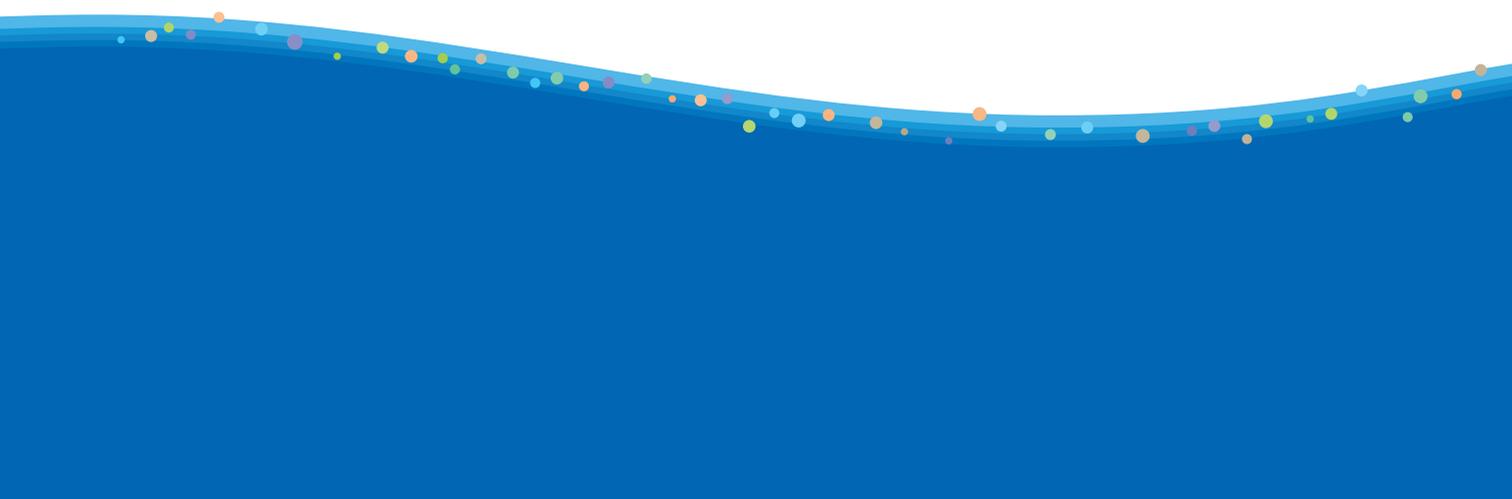


昨日まで世界になかったものを。



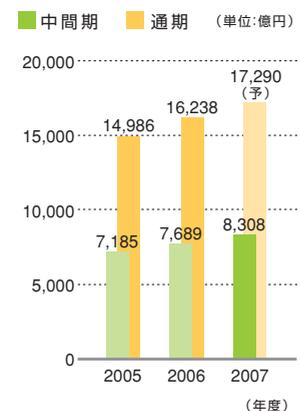
H I G H L I G H T S
中間決算ハイライト

当社グループの当中間期における連結業績は、旺盛な海外需要を背景にケミカルズ・セグメントやせんい・セグメントが業績を伸ばしたことなどから、売上高は8,308億円で、前中間期比619億円(8.0%)の増収となり、営業利益は637億円で、前中間期比130億円(25.6%)の増益となりました。また、経常利益は631億円で、前中間期比144億円(29.5%)の増益となり、当中間純利益は380億円で、前中間期比91億円(31.3%)の増益となりました。

以上の結果、売上高、利益とも中間期としては過去最高の業績を達成しました。

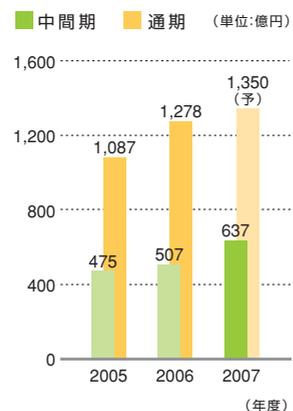
■ 売上高

8,308 億円
 【前中間期比 619億円増】



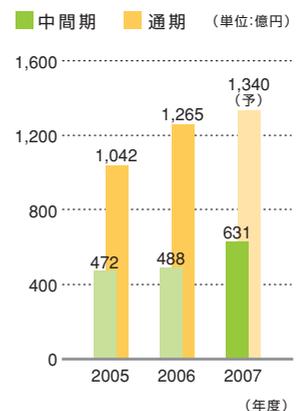
■ 営業利益

637 億円
 【前中間期比 130億円増】



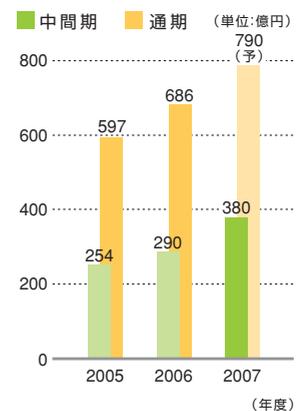
■ 経常利益

631 億円
 【前中間期比 144億円増】



■ 中間(当期)純利益

380 億円
 【前中間期比 91億円増】



※本年10月30日に発表した「ニチアス(株)による大臣認定不正取得への当社対応について」に関する影響額については、現時点ではその算定が困難であるため、上記2007年度の中間期連結業績及び連結業績予想には織り込まれていません。算定でき次第、必要に応じて修正を行う予定です。

ごあいさつ

“株主のみなさまへ”をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

当中間期における日本経済は、米国経済の先行き懸念や個人消費の伸び悩みなどの不安材料はあるものの、企業収益や雇用情勢は堅調に推移しており、景気は回復基調にありました。一方、当社グループの事業を取り巻く環境は、原油価格の高騰により原燃料価格の高止まりが依然として続くなど、予断を許さない状況で推移いたしました。

このような中で、当社グループの当中間期における連結業績は、中国をはじめとする海外需要を背景に好調に推移したケミカルズ・セグメントや、海外の生産・販売拠点が好調に推移したせんい・セグメントなどを中心に業績を伸ばし、中間期としては過去最高の数値を達成いたしました。

これらの業績の状況も踏まえ、当中間期の配当は、前中間期の配当額より1円増配し1株につき6円の配当を実施する予定です。

なお、本年10月、旭化成ホームズが供給した一部の住宅に使用している部材について、部材の供給者であるニチアス(株)が不正に国土交通大臣認定を取得していたことが判明いたしました。当社グループは、安全・安心な住宅の供給者としての責任を果たすため、全件の改修工事を行うとともに、今後、再発防止に努めてまいります。

株主のみなさまにおかれましては、従来と変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2007年11月



代表取締役会長

代表取締役社長

山口 信夫 蛭田 史郎

■ 旭化成グループ基本理念

私たち旭化成グループは、
 科学と英知による絶えざる革新で、
 人びとの「いのち」と「くらし」に貢献します。

当中間期の事業活動の状況をお知らせします。

旭化成株式会社

旭化成グループ事業会社



旭化成ケミカルズ株式会社
〒100-8440
東京都千代田区有楽町一丁目1番2号
(日比谷三井ビル)
Tel. 03-3507-2220
社長 藤原 健嗣 資本金 30億円

〈主な営業品目〉

ケミカルズ・セグメント

モノマー系(無機工業薬品、アクリロニトリル、スチレンモノマー、アジピン酸、MMAモノマーなど)、ポリマー系(ポリエチレン「サンテック™」、スチレン系樹脂「スタイラック™」、合成ゴム、ポリアセタール樹脂「テナック™」、変性PPE樹脂「サイロン™」、ナイロン66樹脂「繊維「レオナ™」など)、高付加価値系(塗料原料、医薬・食品用添加剤「セオラス™」、火薬類、感光性樹脂・製版システム「APR™」、板状感光性樹脂「AFP™」、高分子中空糸膜「マイクロザ™」、微多孔膜「ハイポア™」、イオン交換膜電解装置、「サララップ™」、「ジップロック™」、各種フィルム・シート、発泡体など)



旭化成ホームズ株式会社
〒160-8345
東京都新宿区西新宿一丁目24番1号
(エステック情報ビル)
Tel. 03-3344-7111
社長 波多野 信吾 資本金 32億5千万円

ホームズ・セグメント

「ヘーベルハウス™」、「ヘーベルメゾン™」、マンション事業、都市開発事業、リフォーム事業、不動産事業、金融事業など



旭化成ファーマ株式会社
〒101-8481
東京都千代田区神田美土代町9番地1
(MD 神田ビル)
Tel. 03-3259-5777
社長 大江 啓 資本金 30億円

ファーマ・セグメント

医薬品(「エルシトニン™」、「フリバス™」、「トレドミン™」など)、医薬品原料、機能性食品素材、診断薬、診断薬用酵素、ウイルス除去フィルター「プラノバ™」、ポリスルホン膜人工腎臓「APS™」、吸着型血液浄化器「セルソーパー™」など



旭化成せんい株式会社
〒530-8205
大阪府大阪市北区堂島浜一丁目2番6号
(新ダイビル)
Tel. 06-6347-3600
社長 坂本 正樹 資本金 30億円

せんい・セグメント

ポリウレタン弾性繊維「ロイカ™」、セルローズ繊維「ベンベルグ™」、スパンボンド「エルタス™」、人工皮革「ラムース™」、ポリエステル長繊維など



旭化成エレクトロニクス株式会社
〒160-0023
東京都新宿区西新宿一丁目23番7号
(新宿ファーストウエスト)
Tel. 03-6911-2700
社長 鴻巣 誠 資本金 30億円

エレクトロニクス・セグメント

感光性ポリイミド樹脂「バイメル™」、感光性ドライフィルムレジスト「サンフォート™」、フォトマスク防塵保護膜ベリクル、LSI、ホール素子、プリント配線基板用ガラスクロスなど



旭化成建材株式会社
〒105-0021
東京都港区東新橋二丁目12番7号
(住友東新橋ビル2号館)
Tel. 03-5473-5251
社長 小林 宏史 資本金 30億円

建材・セグメント

軽量気泡コンクリート(ALC)「ヘーベル™」など、パイル、高機能断熱材「ネオマ™フォーム」など

(2007年9月30日現在)

当社グループの主要事業別の営業状況について、6つの事業会社に対応した事業セグメントに「サービス・エンジニアリング等」を加えた7つのセグメントに区分して説明します。なお、本年4月1日付で旭化成ケミカルズ(株)が旭化成ライフ&リビング(株)を統合したことに伴い、ケミカルズ・セグメントの前年同期との比較については、従来のライフ&リビング・セグメントの業績を組み替えて行っています。



Chemicals

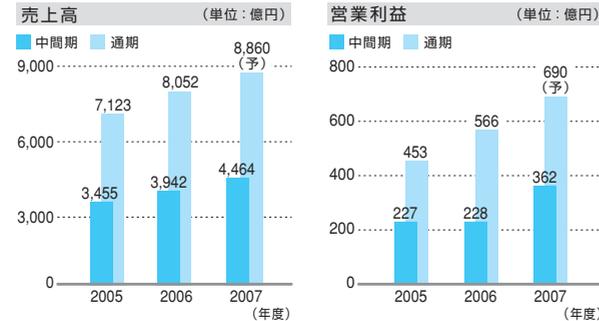
ケミカルズ<セグメント>

53.7%
(売上構成比率)

売上高は4,464億円で、前中間期比522億円(13.2%)の増収となり、営業利益は362億円で、前中間期比134億円(59.0%)の大幅増益となりました。

汎用系事業は、モノマー系事業のアクリロニトリルやスチレンモノマーなどが旺盛な海外需要を背景に好調に推移したことや、ポリマー系事業が堅調に推移したことなどから、業績は前中間期を上回りました。

成長市場での設備増強や先端市場での新規事業化を推進している高付加価値系事業は、イオン交換膜法食塩電解プラント及びイオン交換膜や、リチウム二次電池用微多孔膜「ハイポア™」の販売が好調に推移したことなどから、業績は前中間期を上回りました。



※2005、2006年度はライフ&リビング・セグメントとの合算数値



Homes

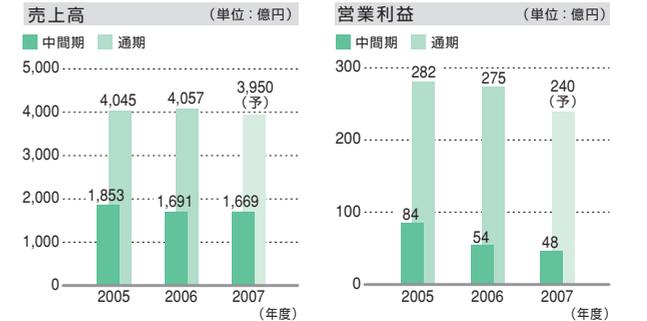
ホームズ<セグメント>

20.1%
(売上構成比率)

売上高は1,669億円で、前中間期比22億円(1.3%)の減収となり、営業利益は48億円で、前中間期比6億円(10.2%)の減益となりました。なお、建築請負事業の受注高は1,536億円で、前中間期比24億円(1.5%)の減少となりました。

建築請負・分譲事業は、集合住宅「ヘーベルメゾン™」が好調に推移したものの、戸建住宅「ヘーベルハウス™」の引渡戸数が減少したことから、業績は前中間期を下回りました。

住宅周辺事業は、リフォーム事業を中心に好調に推移したことなどから、業績は前中間期を上回りました。



※1頁に記載の通り、ニチアス株関連の影響額については2007年度の中間期連結業績及び連結業績予想には織り込まれていません。



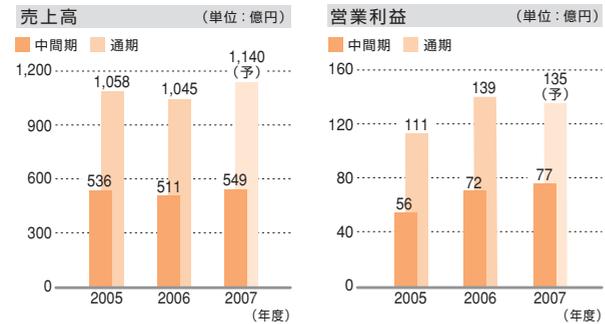
Pharma
ファーマ〈セグメント〉

6.6%
(売上構成比率)

売上高は549億円で、前中間期比37億円(7.3%)の増収となり、営業利益は77億円で、前中間期比5億円(7.4%)の増益となりました。

医薬事業は、カルシトニン製剤「エルシトニン™」や排尿障害改善薬「フリバス™」などの主力製品が堅調に推移したものの、ライセンス収入の減少や研究開発費の増加の影響を受け、業績は前中間期を下回りました。

医療事業は、ポリスルホン膜人工腎臓「APS™」を中心に各製品が国内外で販売量を伸ばしたことなどから、業績は前中間期を上回りました。



Fibers
せんい〈セグメント〉

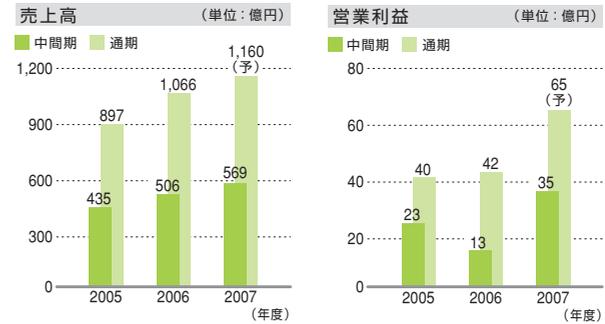
6.9%
(売上構成比率)

売上高は569億円で、前中間期比63億円(12.4%)の増収となり、営業利益は35億円で、前中間期比22億

円(2.7倍)の増益となりました。

ポリウレタン弾性繊維事業は、世界的な需要の増加を受け欧米をはじめとして海外拠点が好調に推移し、業績は前中間期を上回りました。

再生セルロース繊維「ベンベルグ™」は、海外向けを中心に販売量が増加したことなどから、業績は前中間期を上回りました。不織布事業は、原燃料価格高騰の影響を受けたものの固定費の削減に努めたことなどから、業績は前中間期を上回りました。



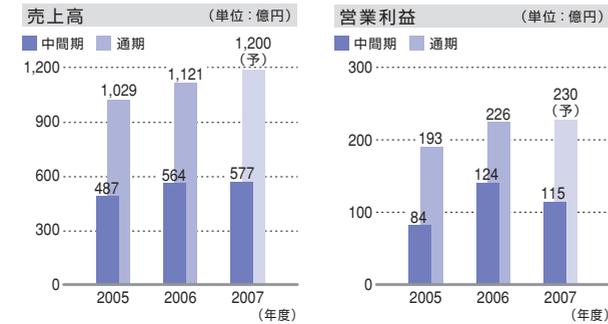
EMD
エレクトロニクス〈セグメント〉

6.9%
(売上構成比率)

売上高は577億円で、前中間期比13億円(2.3%)の増収となりましたが、営業利益は115億円で、前中間期比9億円(7.3%)の減益となりました。

電子材料系事業は、中国をはじめとする海外需要が堅調に推移し、一般的に販売量が増加したことなどから、業績は前中間期を上回りました。

電子部品系事業は、主力のLSI製品がデジタル家電用途の需要調整の影響を受け、販売価格の下落もあり、業績は前中間期を下回りました。



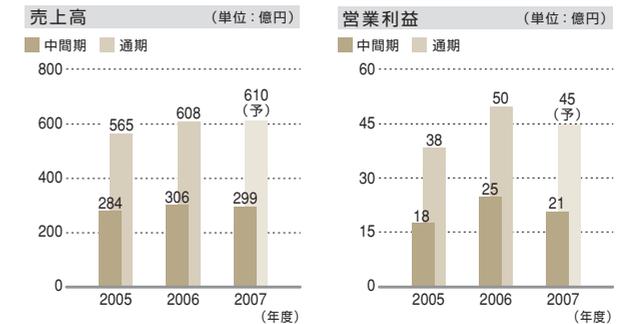
Construction Materials
建材〈セグメント〉

3.6%
(売上構成比率)

売上高は299億円で、前中間期比7億円(2.2%)の減収となり、営業利益は21億円で、前中間期比4億円(16.1%)の減益となりました。

建築資材・住宅資材事業は、建築基準法改正の影響で建築着工数が減少したことを受け、軽量気泡コンクリート(ALC)「ヘーベル™」などの販売量が減少し、業績は前中間期を下回りました。

基礎杭を扱う基礎事業は、小口径・回転杭工法「EAZET™」の新規市場の開拓が進んだことなどから、業績は前中間期を上回りました。断熱材事業は、木造住宅の着工数減少の影響などにより、業績は前中間期を下回りました。

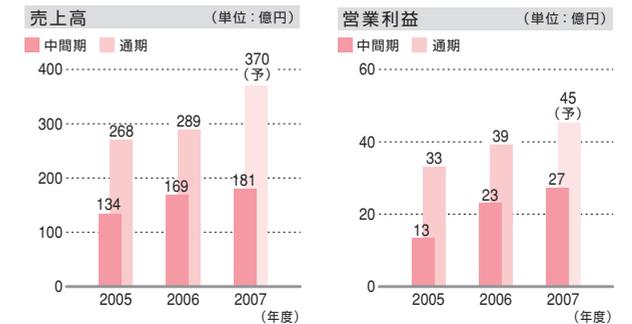


Service & Engineering
サービス・エンジニアリング等〈セグメント〉

2.2%
(売上構成比率)

売上高は181億円で、前中間期比12億円(7.0%)の増収となり、営業利益は27億円で、前中間期比4億円(17.0%)の増益となりました。

なお、エンジニアリング事業は、海外向けプラント事業が好調に推移したことなどから、業績は前中間期を上回りました。

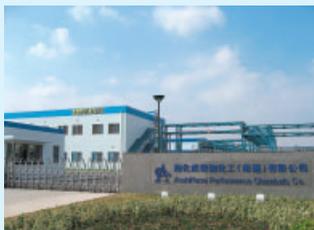




ケミカルズ
〈セグメント〉

「デュラネート™」
中国新工場稼働開始

旭化成ケミカルズでは、中国江蘇省南通市において建設を進めていたHDI(ヘキサメチレンジイソシアネート)系ポリイソシアネート「デュラネート™」の新工場が完成し、本年8月に稼働を開始しました。「デュラネート™」は、高機能ウレタン塗料の原料として自動車分野・建築分野などで広く実績があり、今後、アジア地域を中心に需要の拡大が見込まれています。同社では、今回の新工場稼働による供給体制の強化・拡大により、HDI系硬化剤分野での一層の事業拡大を図っていきます。



「デュラネート™」中国新工場



ホームズ
〈セグメント〉

「ヘーベルハウス フレックス™
ピロティガレージのある家」新発売

旭化成ホームズでは、本年8月に都市部密集地域の建替え層向けの新品「ヘーベルハウス フレックス™ ピロティガレージのある家」の発売を開始しました。同商品は、「ヘーベルハウス フレックス™」の構造特性を活かし、1階の大部分を柱だけで支えるピロティ形式のガレージとしています。2階以上に住居空間を設けることにより、居住条件の厳しい都市部密集地域において、快適な生活を実現することができます。同社では、今後も安全・安心で快適なロングライフ住宅の提案を進めていきます。



「ピロティガレージのある家」外観



ファーマ
〈セグメント〉

透析事業の強化

医療事業を行う旭化成メディカルは、透析事業の一層の強化を図るため本年10月にクラレメディカルの透析事業を統合し、「旭化成クラレメディカル」として事業を開始しました。人工腎臓は、透析治療に使用される血液中の老廃物を除去する医療機器で、その需要は全世界で増加しつつあります。同社では、今回の統合により国内最大の供給メーカーとしての地位を確固たるものとするとともに、宮崎県延岡市において新工場の建設に着手するなど積極的な製造能力増強を図り、今後の需要の増加に対応していきます。



ポリスルホン膜人工腎臓「APS™」



せんい
〈セグメント〉

新不織布「Precisé™(プレシゼ)」
製造設備完成

旭化成せんいでは、本年9月に滋賀県守山市において新不織布「Precisé™(プレシゼ)」の製造設備が完成し、本格的な事業展開に着手しました。「Precisé™」は、同社独自の製造技術により開発した全く新しいタイプの不織布です。高いバリア性をはじめ優れた特性を持つため、今後、各種フィルター、食品包材や医療用途など、様々な分野での採用が期待されています。同社では、今後も同製品の用途開発に注力していきます。



「Precisé™」製造設備のある守山支社



エレクトロニクス
〈セグメント〉

大型ペリクル製造設備の新設

旭化成エレクトロニクスでは、本年8月に第10世代液晶パネル対応大型ペリクルの製造設備の新設を決定し、来年11月の稼働を目標に宮崎県延岡市において建設工事に着手しました。ペリクルは、半導体や液晶パネルの露光工程において微細パターンが描かれたフォトマスクに塵が付着するのを防ぐために使用されており、液晶パネル用の大型ペリクルでは同社が実質的に世界で唯一の供給メーカーです。同社では、今回の製造設備の新設により、今後の大型ペリクルの需要増加に対応し安定的供給を果たしていきます。



宮崎県延岡市のペリクル工場



建 材
〈セグメント〉

「EAZET™」

国土技術研究センターの技術審査証明取得

旭化成建材の取り扱う小口径・回転杭工法「EAZET™」が、今春、国土技術研究センターの技術審査証明を取得しました。「EAZET™」は、低振動・低騒音かつ無排土で省スペースでの施工が可能な環境配慮型杭工法です。この長所が評価され、主力の戸建住宅など建築分野用途のみならず、近年は歩道橋などの小規模土木構造物や携帯電話の鉄塔の基礎、駅構内のエレベーター設置工事など、土木分野でのニーズが高まっています。同社では、今回の技術審査証明取得により土木分野での一層の事業拡大を図っていきます。



土木分野での展開例 (イメージ)

新聞広告[マイクロザ:水の星編]



問題:水の星、ふたたび。
「ここは湖だった。魚がいたんだ」

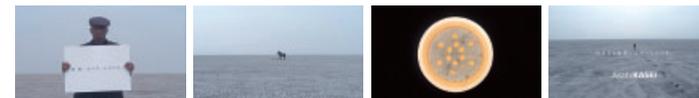
中空糸によるかつてない排水ろ過装置、世界へ。
どの国の問題でもない。これは人間の問題だ。

世界中から、水不足のニュースが聞こえてくる。
私たち旭化成が、雨を降らすことはできない。けれども、限りある水の有効利用はできる。
旭化成の精密ろ過膜「マイクロザ」は、私たち独自の中空糸技術で、低コストかつ高い過安定性を実現。
現在、アメリカ、シンガポール、中国など世界500箇所以上の浄水場や排水プラントで稼働している。
もちろんこれだけで、水問題が解決するわけではない。
けれども、役立つ技術があるのなら、そのすべてを使ってくい止めてゆきたいと思う。
これはどの国の問題でもなく、すべての人の、いのちと暮らしに関わる問題なのだから。
昨日まで世界になかったもの「マイクロザ」。詳しくはwww.asahi-kasei.co.jp

昨日まで世界になかったものを。 Asahi KASEI



TV-CM [水の星] 編



私は漁師だった。ここは、湖だったんだよ。
その人は遠くを見ながら話してくれました。
もう一度、水の星へ帰るために。
中空糸という糸から生まれたかつてない排水ろ過装置。世界500箇所以上で稼働しています。
昨日まで世界になかったものを。Asahi KASEIです。

※同CMは旭化成のホームページでもご覧いただけます。

「イヒ!」を超えて、
「イヒ!」の先へ。

旭化成では、
1997年より「イヒ!」を使用した
企業広告を続け
てまいりました。

しかし今、<AsahiKASEI>というグループブランドは、より高い信頼性と技術力、国際性の象徴となり、「人びとの“いのち”と“くらし”に貢献」するというグループ理念を具現化するものでなくてはなりません。そのために、「イヒ!」が築いた土台の上に「イヒ!」を超える新しい価値を乗せるため、新しい企業広告をスタートさせました。

昨日まで
世界になかったものを。
それが私たちの方法。

世界への貢献。
その実現はまず、
世界に存在する
様々な問題を発見
することから

始まります。新しい企業広告は、私たちが発見した世界の様々な「問題」と、それに対して旭化成グループの高度な技術力を用いて出した「答え」=取り組み事実を紹介していきます。昨日まで世界になかったものを生みだし続け、よりよい世界づくりに役立っていく。それが私たちの方法、AsahiKASEI-WAYです。



POINT

① 流動資産

現金及び預金が256億円減少したものの、ケミカル事業で販売量の増加や製品価格の改定による売上高の増加があったことなどにより、受取手形及び売掛金が185億円増加し、住宅の分譲事業などに関連して棚卸資産が244億円増加したことなどから、前期比126億円(1.7%)増加しました。

② 固定資産

有形固定資産は、取得額が減価償却費を上回ったものの、繊維事業やエレクトロニクス事業で減損損失が計上されたことなどにより37億円減少しました。無形固定資産は、取得額が減価償却費を下回ったことなどにより11億円減少し、投資有価証券も保有株式の時価評価減少などで242億円減少したため、固定資産全体では、前期末に比べて274億円(3.7%)減少しました。

③ 流動負債

住宅の請負事業の工事が在庫が増加したことなどから前受金が153億円増加したことなどにより、前期比139億円(2.8%)増加しました。

④ 純資産

中間純利益を380億円計上した一方、親会社による配当の支払98億円、その他有価証券評価差額金の減少134億円などがあり、前期末の6,535億円から157億円(2.4%)増加しました。その結果、1株当たり純資産は前期比11.93円増加し、473.43円となり、自己資本比率は前期末の44.2%から45.8%となりました。D/Eレシオは、前期末から0.05ポイント改善し、0.29となりました。

■ 中間連結貸借対照表(要旨)

(単位:億円)

科目	当中間期 2007年9月30日現在	前期 2007年3月31日現在	前中間期 2006年9月30日現在
資産の部			
① 流動資産	7,356	7,230	7,159
② 固定資産	7,095	7,369	7,439
有形固定資産	4,233	4,270	4,321
無形固定資産	273	285	301
投資その他の資産	2,589	2,815	2,817
資産合計	14,451	14,599	14,598
負債の部			
③ 流動負債	5,144	5,005	5,157
固定負債	2,615	3,059	3,240
負債合計	7,759	8,064	8,397
純資産の部			
株主資本	5,897	5,618	5,294
資本金	1,034	1,034	1,034
資本剰余金	794	794	794
利益剰余金	4,087	3,805	3,642
自己株式	△19	△15	△176
評価・換算差額等	725	839	836
少数株主持分	70	79	71
④ 純資産合計	6,692	6,535	6,201
負債純資産合計	14,451	14,599	14,598

■ 中間連結損益計算書(要旨)

(単位:億円)

科目	当中間期 2007年4月1日~ 2007年9月30日	前中間期 2006年4月1日~ 2006年9月30日	前期 2006年4月1日~ 2007年3月31日
売上高	8,308	7,689	16,238
売上原価	6,272	5,845	12,240
売上総利益	2,036	1,844	3,998
販売費及び一般管理費	1,399	1,337	2,719
営業利益	637	507	1,278
営業外収益	61	40	131
営業外費用	66	59	144
経常利益	631	488	1,265
特別利益	7	12	31
特別損失	70	40	147
税金等調整前中間(当期)純利益	568	459	1,149
法人税、住民税及び事業税	187	148	422
法人税等調整額	△1	19	36
少数株主損益	損2	損2	損5
中間(当期)純利益	380	290	686

■ 中間連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:億円)

科目	当中間期 2007年4月1日~ 2007年9月30日	前中間期 2006年4月1日~ 2006年9月30日	前期 2006年4月1日~ 2007年3月31日
営業活動による キャッシュ・フロー	435	477	1,284
投資活動による キャッシュ・フロー	△320	△409	△813
財務活動による キャッシュ・フロー	△376	△21	△360
現金及び現金同等物に 係る換算差額	4	1	6
現金及び現金同等物の 増減額(減少:△)	△257	47	117
現金及び現金同等物の 期首残高	1,017	864	864
非連結子会社の連結化に 伴う増加額	—	22	36
現金及び現金同等物の 中間期末(期末)残高	760	934	1,017

■ 中間連結株主資本等変動計算書(要旨)(2007年4月1日~2007年9月30日)

(単位:億円)

	株主資本					評価・換算 差額等	少数株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
2007年3月31日残高	1,034	794	3,805	△15	5,618	839	79	6,535
中間期間中の変動額								
剰余金の配当			△98		△98			△98
中間純利益			380		380			380
自己株式の取得				△4	△4			△4
自己株式の処分			0	0	0			0
株主資本以外の項目の中間期間中の変動額(純額)						△114	△8	△122
中間期間中の変動額合計	—	0	282	△3	279	△114	△8	157
2007年9月30日残高	1,034	794	4,087	△19	5,897	725	70	6,692

旭化成株式会社 当中間期の決算をご報告します。

■ 中間貸借対照表 (要旨)

(単位:億円)

科目	当中間期	前期	前中間期
	2007年9月30日現在	2007年3月31日現在	2006年9月30日現在
資産の部			
流動資産	1,634	1,781	1,823
固定資産	4,998	5,280	5,446
有形固定資産	673	682	690
無形固定資産	44	49	59
投資その他の資産	4,281	4,550	4,697
資産合計	6,632	7,062	7,270
負債の部			
流動負債	1,160	1,170	1,248
固定負債	1,394	1,775	1,929
負債合計	2,554	2,945	3,177
純資産の部			
株主資本	3,579	3,499	3,450
資本金	1,034	1,034	1,034
資本剰余金	794	794	794
利益剰余金	1,768	1,685	1,797
自己株式	△17	△14	△175
評価・換算差額等	499	618	643
純資産合計	4,078	4,116	4,093
負債純資産合計	6,632	7,062	7,270

■ 中間損益計算書 (要旨)

(単位:億円)

科目	当中間期	前中間期	前期
	2007年4月1日~ 2007年9月30日	2006年4月1日~ 2006年9月30日	2006年4月1日~ 2007年3月31日
営業収益	241	230	428
一般管理費	82	73	145
営業利益	159	157	282
営業外収益	24	23	44
営業外費用	18	18	36
経常利益	165	162	291
特別利益	6	5	9
特別損失	8	9	24
税引前中間(当期)純利益	162	158	276
法人税、住民税及び事業税	△32	△10	△31
法人税等調整額	13	0	18
中間(当期)純利益	181	168	289

■ 中間株主資本等変動計算書 (要旨) (2007年4月1日~2007年9月30日)

(単位:億円)

	株主資本					評価・換算 差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
2007年3月31日残高	1,034	794	1,685	△14	3,499	618	4,116
中間期間中の変動額							
剰余金の配当			△98		△98		△98
中間純利益			181		181		181
自己株式の取得				△4	△4		△4
自己株式の処分		0		0	0		0
株主資本以外の項目の中間期間中の変動額(純額)						△118	△118
中間期間中の変動額合計	—	0	83	△3	80	△118	△38
2007年9月30日残高	1,034	794	1,768	△17	3,579	499	4,078

■ 会社概要 (2007年9月30日現在)

■ 会社概要

商号	旭化成株式会社 (Asahi Kasei Corporation)
設立年月日	1931年5月21日
資本金	103,388,521,767円
主要事業	繊維、化学、住宅、建材、エレクトロニクス、 医薬・医療等の事業を行う会社の株式保有及び その事業活動の管理等
東京本社	〒100-8440 東京都千代田区有楽町一丁目1番2号 (日比谷三井ビル) 電話(03)3507-2730
大阪本社(本店)	〒530-8205 大阪市北区堂島浜一丁目2番6号(新ダイビル) 電話(06)6347-3111
連結対象子会社	105社
持分法適用会社	51社
URL	http://www.asahi-kasei.co.jp/

■ 役員

代表取締役会長	山口 信夫
代表取締役社長 社長執行役員	蛭田 史郎
取締役 副社長執行役員	伊藤 一郎
取締役 専務執行役員	甲賀 国男
取締役 常務執行役員	佐藤 克彦
取締役 常務執行役員	辻田 清
取締役 執行役員	明石 景泰
取締役 執行役員	藤原 孝二
取締役 執行役員	水野 雄氏
社外取締役	瀬戸 雄三
社外取締役	児玉 幸治
常勤監査役	土屋 友二
常勤監査役	中前 憲二
社外監査役	和食 克雄
社外監査役	手塚 一男
上席執行役員	水永 正憲
執行役員	稲田 勉
執行役員	永原 肇
執行役員	林 善夫

■ 株式の状況 (2007年9月30日現在)

■ 株式の状況

発行可能株式総数	4,000,000,000 株
発行済株式の総数	1,402,616,332 株
株主数	121,820 名

■ 大株主(上位10名)

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	出資比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	83,191	5.95
日本生命保険相互会社	70,000	5.00
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	51,604	3.69
旭化成グループ従業員持株会	35,477	2.54
株式会社三井住友銀行	35,404	2.53
第一生命保険相互会社	32,150	2.30
東京海上日動火災保険株式会社	31,100	2.22
明治安田生命保険相互会社	24,558	1.76
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	21,288	1.52
株式会社みずほコーポレート銀行	20,269	1.45

*当社への出資比率については、自己株式を除いて算出しています。

■株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで	
定時株主総会	6月下旬	
1単元の株式の数	1,000株	
基準日	1. 定時株主総会、期末配当	3月31日
	2. 中間配当	9月30日
	3. その他必要あるときは、あらかじめ公告して定めた日	
株主名簿管理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社	
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 証券代行部	
郵便物送付先	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10	
	住友信託銀行株式会社 証券代行部	
同取次所	住友信託銀行株式会社	全国各支店
	大和証券株式会社	全国本支店
	日本証券代行株式会社	全国本支店
(大和証券及び日本証券代行では一部お取次できない事務があります。)		
公告の方法	電子公告 http://www.asahi-kasei.co.jp/asahi/jp/koukoku/index.html	
上場証券取引所	東京・大阪・名古屋・福岡・札幌 各証券取引所	

■株式事務手続き

単元未満株式の買増制度・買取制度について

単元未満株式（1,000株未満の株式）は証券市場で売買することができません。単元未満株式をご所有の株主様は、単元未満株式数に不足する数の株式を当社から買増して、単元株とすることができます。また、ご所有の単元未満株式の時価での買取を、当社にご請求することもできます。

住所変更などのご連絡について

株主様に住所変更などがございます場合、お早めにお手続きください。

配当金受領方法について

配当金は、支払開始の日から満3年（除斥期間）を経過しますと、当社定款の定めにより、お支払いできなくなりますので、お早めにお受け取りください。

配当金のお受け取りには、ご指定の銀行の預金口座への振込による方法をおすすめいたします。

上記をはじめ、株式に関するお問い合わせ、お手続きに必要な各種用紙のご請求は、株主名簿管理人（住友信託銀行株式会社）のフリーダイヤルにて承っております。また、各種用紙のご請求は、同管理人のインターネットのホームページでも受付しております。

住所変更等の用紙のご請求(24時間) **0120-175-417**

その他のご照会(9:00~17:00 土日祝日除く) **0120-176-417**

ホームページURL <http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

証券保管振替機構（ほふり）をご利用の株主様は、お取引口座のある証券会社にご照会ください。

旭化成株式会社

〒530-8205 大阪市北区堂島浜一丁目2番6号（新ダイビル）

<http://www.asahi-kasei.co.jp/>

